



東日本大震災発生時に
0歳だった赤ちゃんが、
無事にハタチを迎えるその日まで。



公益社団法人ハタチ基金
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺commons2F
TEL:03-3330-0005 (平日10:00~19:00)
www.hatachikikin.com



ハタチ基金 2016年度活動報告書
Report 2016

ハタチ基金とは、
東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、
20年間継続的に支援を行う基金です。



苦しく辛い経験をした子どもは、
誰よりもつよくやさしくなれる。
被災地の子どもたちの成長は
この国の新たな希望です。

家族を失う。友達を失う。

こんなにも大きな試練を一人で乗り越えていくことは、

とても大変です。しかし、長期にわたり

「君はひとりじゃない」と励まし、子どもたちに

やさしさを届け続ける存在がいたら。

きっと試練を乗り越えるための原動力の

一つになれるのではないのでしょうか。そしてきっと。

乗り越えた試練の分だけ

強さと優しさをもった大人となり、

社会の中で起こる次なる試練の解決にも

取り組める人となれるはずです。

そのようなおもいでハタチ基金は設立されました。

CONTENTS

- 1 もくじ
- 2 代表理事より
- 3 子どもたちを取り巻く現状と
ハタチ基金のこれから
- 4 2016年度の支援事業について
- 5 支援団体の活動報告
- 15 個人からのご支援
- 17 企業・団体からのご支援
- 18 支援者様からのメッセージ
- 19 会計報告
- 21 ハタチ基金へのご支援の方法
- 22 運営団体紹介

東日本大震災後、福島出身の妻の友人達から、「子どもを外で遊ばせられない。どうしよう」というメールが妻のもとに届く様になりました。原発事故と放射能の不安のせいで、子どもたちは常に家にいざるを得ませんでした。

「困っている子どもたちを助けなくては」

同じく子ども支援NPOで活動してきた仲間の声がけのもと、「ハタチ基金」を立ち上げ、幸い、多くの方々にご寄付いただきました。そのご寄付をもとに、福島の子どものための屋内公園「ふくしまインドアパーク」など様々な被災地の子ども支援事業を始める事ができました。

※「ふくしまインドアパーク」は行政による屋内遊び場等の整備が進んだ事をうけ、2014年度をもって終了しました。

震災から6年。皆様の想いに支えられ、ハタチ基金は復興状況や現地のニーズに応じた支援事業を続ける事ができています。

先日嬉しいことがありました。ハタチ基金の支援事業で学習支援を受けた当時の南三陸町の中学生が大学生となり、学生インターンに応募してくれました。

支援される立場から、支援する立場へ。

そうした循環も生まれ始めています。

しかし、もう課題はないのでしょうか。いえ、いまだに原発避難者へのいじめは、続いています。その他の地域でも、震災によって少子高齢化の針を10年先に進めてしまい、衰退が加速されている地域も多々あります。

一人でも多くの子どもたちに支援を届けられる様、

ハタチ基金のこれまでの支援事業で得た知見を「波紋」の様に、東北全体、日本全体に拡げていきたいと思っています。

被災地の未来を担う子ども達に、何が出来るか。刻々と移り行くニーズに耳を澄まし、その時やれる支援を精一杯。みなさんの肩の力の抜けた、でも息の長い応援を、僕たちは求めています。今後ともハタチ基金へのご支援・ご参画のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

震災から6年。
刻々と移り行くニーズに耳を澄まし、
その時やれる支援を、
これからも精一杯。



公益社団法人ハタチ基金 代表理事

駒崎弘樹



子どもたちを取り巻く現状

戦後最大の自然災害となった東日本大震災から6年半。震災当時、0歳だった赤ちゃんが小学1年生になりました。阪神大震災時に5年で解消した仮設住宅に、2017年8月末時点で、約2万人が暮らしています(応急仮設住宅入居者数のみ)。また、東京電力第1原発事故で出されていた福島県内での避難指示は順次解除されつつありますが、未だ、対象区域の約3割は帰還する事ができず、避難先での生活が続きます。あるアンケートによると、心身の影響が続いていると答えた被災者は6割、今後の生活に不安を感じると答えた人は7割以上にのぼります。

仮設住宅入居者数 **約2万人** (2017年8月末時点)



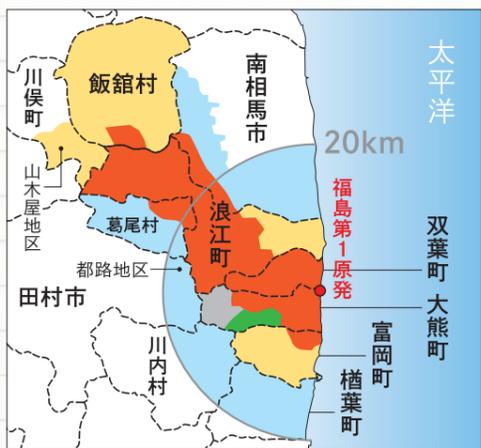
2017年9月24日 岩手県大槌町にて

震災の心身への影響続く **6割超**



【参考】福島県、「応急仮設住宅・借上げ住宅・公営住宅の進捗状況(平成29年8月31日時点)」
https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/ldata/298708_718148_misc.pdf (最終閲覧日 2017/09/22)
 宮城県、「応急仮設住宅(プレハブ住宅)の入居状況(平成29年8月31日現在)」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/642212.pdf> (最終閲覧日 2017/09/22)
 岩手県、「応急仮設住宅(建設分)の入居状況(平成29年8月31日現在)」
http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/023/870/29kasetsu08.pdf
 (最終閲覧日 2017/09/22)
 Yahoo! JAPAN、「震災復興のいま(3.11応援企画)」<https://fukko.yahoo.co.jp/graph/>
 (最終閲覧日 2017/09/28)
 NHK、「東日本大震災6年 被災者アンケート」<https://www3.nhk.or.jp/news/special/shinsai6questionnaire/>
 (最終閲覧日 2017/09/22)

避難指示区域 (2017年4月1日時点)



ハタチ基金のこれから

ハタチ基金は、震災で直接被害を受けた子どもたちへの支援はもちろん、震災に起因する子どもたちの課題や、震災が顕在化させた貧困などによる教育格差などの社会問題に取り組んでいます。課題先進地ともいわれる東北で教育事業を行うことは、この国の未来への投資につながると考えます。

被災地における現状の課題

- 貧困の拡大** 経済的困窮が学習機会の不平等につながり、結果として世代を超えた貧困の連鎖を生む
- 生活の崩壊** 家や仕事を失うことによる家庭環境の変化 現在も元の状態にもどっていない
- 人心の荒廃** 被災そのものや失業手当・補償による 労働意欲や家庭環境の変化
- 災害の持続** 先行きのみえない福島原発事故に由来する諸課題

ハタチ基金とは、

東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、
20年間継続的に支援を行う基金です。



0歳から20歳までの各年代の子どもたちへの支援事業が助成の対象です。

2016年度の支援事業

コラボ・スクール大槌臨学舎
(岩手県大槌町)
コラボ・スクール女川向学館
(宮城県女川町)

勉強する場を奪われた子どもたちに、
学べる場を



運営:認定NPO法人カタリベ

学校外教育バウチャー提供事業
(事務所:宮城県仙台市)

※全国に避難している児童生徒を含む
被災児童生徒が対象

塾や習い事に通えなくなった
子どもたちへ、教育の機会を



運営:公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

おうち保育園(宮城県仙台市)

働く親御さんが安心して子どもを
預けることの出来る、「第2のおうち」
のようなあたたかい保育園



運営:認定NPO法人フローレンス

児童養護施設支援・人材育成事業など
(宮城県石巻市、東松島市) ※対象生徒は
近隣地域も含む

子どもたちに多様な経験と
参画の機会の提供



運営:(一社)やまびと災害ボランティアネットワーク

みなみそうまラーニングセンター
(福島県南相馬市)

子ども一人ひとりに合わせた
居場所づくりとサポートを



運営:NPO法人トイボックス

働く親御さんが安心して子どもを預けることの出来る、 「第2のおうち」のようなあたたかい保育園

おうち保育園

【0歳～】

認定NPO法人フローレンス



課題

仙台は全国でも待機児童数が多い地域。働きたい親御さんが安心して預けることができる保育園が必要です。

一見すると震災前の日常を取り戻しているかのように見える東北の経済拠点である仙台市は、2012年頃より待機児童数が増え始め、2014年には待機児童数全国ワースト3位、2016年4月時点でも依然213人の待機児童がいます。「働きたくても働けない」、これは仙台及び東北の経済的な復興の妨げになる深刻な事態です。保育ニーズの高いエリアに機動的に小規模保育園を開園することで待機児童問題を解消し、子どもたちの成長と東北地方の経済的復興を下支えすべく、今後もおうち保育園の運営に取り組んでいきます。

活動

子どもたちが笑顔で安心して過ごせる、そんな第2のおうちのような家庭的な保育を目指して。

仙台の子育て世帯が安心して子どもを預ける事ができる家庭的な保育を目指して、2015年4月から0歳～2歳の子どもたちを対象とした「おうち保育園」事業をスタート。2017年4月には3園目となる「おうち保育園かしわざ」を開園しました。また、昨年度から「全国小規模保育協議会仙台支部」の活動を



主導し、仙台の小規模保育インフラの拡大を後押ししています。

TOPICS

【地域とともに】

自身が就労するための保育園探し(保活)は「子どもを安心して預けられるのか」という不安と隣合わせのものです。フローレンスは、おうち保育園(仙台)を開園以来一貫して、地域のお祭り「青葉祭り」に保護者、子どもたちと一緒に参加し、常に地域とのつながりを大切にした園運営を大切にするなど、そうした入園前の不安を少なくする取り組みを続けています。



【多くの人に支えられて】

被災地における保育園事業の展開は、遠く日本全国からその注目を集めています。今年度は、埼玉県のコーラスグループから、チャリティコンサートの収益金を「何か被災地支援に役立てられることがあれば」とご連絡をいただき、子どもたちに楽器をプレゼントすることができました。



成果

3園に約41名が通園。
さらに保育サービスを必要とする家庭を受け入れていきます。

一時保育も含め計3園で、0歳～2歳の子ども約41名をお預かりしています(2017年8月現在)。また、小規模保育協議会を通じてノウハウの共有や行政への提案活動等を実施し、仙台市における保育全体の底上げの一助となっています。

今後のビジョン

これからも働くお父さん、お母さんを応援し、みんなで子どもたちの笑顔を抱きしめるそんな社会にしていきます。

今後も待機児童が多い地域に「おうち保育園」を開園するとともに小規模保育協議会の活動を主導し、子どもたちの成長と仙台及び東北の経済的復興を継続的に支援する事を目指していきます。また、通園している子どもの中には、複雑な家庭環境と思われる子どもも少なくなく、そのような家庭の問題に積極的に関与し、保護者と伴走しながら解決を後押しする「保育ソーシャルワーカー」を各園に配置することを検討しています。



2017年になっても、宮城県の待機児童はゼロを達成することができませんでした。経済的な復興を下支えする保育サービスの充実が、まだまだ充分とはいえない状況です。こうした、保育サービスの「量」の充実と同時に、私たちは「自分のことを好きでいられる」「相手の気持ちを考えることのできる」、これから発展する地域を支える「心」を持った子どもの成長のために、子育ての選択肢となれる保育園づくりを推進していきます。

認定NPO法人フローレンス

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-3-7 秋穂セントラルビル2F
TEL.03-5275-1161(9:00~18:00) <http://www.florence.or.jp/>

「みんなで子どもたちを抱きしめ、子育てとともに何でも挑戦でき、いろんな家族の笑顔があふれる社会」を目指し、子育てと仕事の両立を阻む「病児保育問題」・「待機児童問題」・「障害児保育問題」などの解決に取り組んでいます。非施設型・共済型という日本初の病児保育の仕組みを構築し、首都圏を中心に展開しています。また、待機児童問題の解消を目指し、0歳～2歳を対象とした小規模保育事業に力を入れ、東京都内に14園、仙台市に3園を運営しています。また、日本初である障害児の長時間預かりを可能にした「障害児保育園ヘレン」を東京都杉並区、豊島区で運営しています。



子ども一人ひとりに合わせた居場所づくりとサポートを



**みなみそうま
ラーニングセンター**
【5歳～】
NPO法人トイボックス

課題
震災から6年。
様々な課題を抱える子どもたち
へのサポートが不足しています。

被災地各地で復旧・復興が進む中、南相馬市でも除染が進み避難指示の解除が行われるなど、一定の環境改善が進んでいます。しかしながら、発災時の混乱の影響は子どもたちの発達に未だに大きな影響を残しています。南相馬地域の復興に向けては、子どもたちと家族が円滑に日常生活を送ることができる環境づくりが必要ですが、100名を超える待機児童が発生するなど、新たな課題も発生しています。また、あらゆる業種において人材不足が続いており、様々な課題を抱える子どもたちに十分なサポートが提供されていない状況が続いています。

活動
家庭や地域との連携で
幅広いサポートを。

「みなみそうまラーニングセンター」を拠点に、発達障がいなどの様々な課題を抱える子ども等も含めた地域の子どものためのサードプレイスとして、学習や生活支援を行うとともに、自立を育む機会として様々な行事を行っています。そして、学校・地域・関係機関との連携を強化し、幅広い協力体制を築いています。また、地域の待機児童解消に向け、小規模保育事業開始に向けた準備活動も行いました。



TOPICS



【安心して子育てができるよう、保護者へのサポートも実施】

毎月1回土曜日に臨床心理士の先生においでいただき、保護者の皆様同士で気軽に交流していただいたり、日頃子どもに対して悩んでいること、困っていることなどについて相談していただける「いどばたカフェ」を開催しました。保護者の方からは「ゆっくりお話できてよかった」「子どもと遊んでもらえて助かる」等の感想をいただきました。



【子どもたちが達成感や自信を感じられるようなイベントを実施】

ハタチ基金の寄付企業より、「ペーパークラフト自販機キット」のご寄付をいただきました。センターの職員と子どもたちで作成に取り組み、苦戦しつつも職員と協力しながら、無事に完成させることができました。このように、子どもたちが達成感や自信を得られるよう、工夫を凝らしたイベントを実施しています。

成果
約30名の子どもたちをきめ細やかに
支援。教育事業者の一員として、
原町にこにこ保育園の
立ち上げ準備を実施。

- ラーニングセンター事業では、年間231日活動を行いました。発達課題などを抱える約30名の子どもたちが在籍しています(延べ利用人数は1,223名)。また、子どもの発達や子育ての悩みなどについての相談件数は169件でした。
- 同敷地内に原町にこにこ保育園を開設するにあたり、2017年1月から3月にかけて施設の改修工事を行い、それと並行して行政への申請作業・人材募集・研修を行いました。

今後のビジョン
南相馬市と協働しながら、
安心して子育てできる環境作りに貢献。

これまでの支援事業を通じて信頼関係が築かれ、行政と正式に協働を進める事ができるようになりました。その中で「みなみそうまラーニングセンター」の運営に加え、地域からの要請を受け、2017年4月には小規模保育施設「原町にこにこ保育園」を開園いたしました。また、2015年度より、慶応義塾大学大学院の伊藤健先生による事業評価を実施しています。その内容も指標としつつ、ひき続き子どもたちに寄り添った支援を続けてまいります。

VOICE
保護者の声

保護者の皆様からは、「集団に入ることが苦手だった子が、お友達に『遊ぼう』と声をかけ、自分から集団を作ることができるようになりました。」「一人っ子ですが、センターで年下の子の面倒をみている姿を見て成長を感じました。」「あまり身体を動かすことがなかったのですが、センターでは積極的にサッカー等を楽しんでいるようです。」「進路で悩んでいた時期に、先生に相談に乗ってもらって心強かったです。」「親に言えない悩みも、センターの先生には言っているようです。」「といったお声を多数いただいております。

NPO法人トイボックス

〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江2-13-30 サンイーストビル9F
TEL.06-6543-4770 <http://www.npotoybox.jp>

様々な分野の専門家が集まり、教育からまちづくりまで、多くの活動領域を持つNPOとして活動しています。トイボックスの教育部門であるスマイルファクトリーは現在、大阪府池田市から委託を受け、公教育とNPOの連携としては日本で初めてとなる公設民営の「がっこう」として不登校・ひきこもり・発達障がいなどを抱えた子どもたちや親の支援を展開しています。



塾や習い事に通えなくなった子どもたちへ、教育の機会を

学校外教育バウチャー 提供事業

【 6歳～ 】

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



@ Natsuki Yasuda

課題

震災から6年。いまなお、多くの子どもたちが経済的な困難を抱え、塾などの学校外教育の機会を得られずにいます。

東日本大震災の甚大な被害によって、多くの子どもたちが経済的な困難を抱え、学校外教育の機会を失いました。2016年度、被災地で学校外教育バウチャーの利用者を募集したところ、定員の7倍もの子どもたちから応募が殺到し、実に1,000名以上の子どもたちに支援を届けることができずじまいでした。被災家庭からは「震災後、主人の給料は減り、私(母親)の仕事も休業状態。ローンも積み、これ以上の無理ができません。子どものやる気に歯止めをかけてしまわないか心配です。」など悲痛な声が届いています。

活動

塾や習い事で利用できる学校外教育バウチャーの提供を通じて、434名の子どもたちの学びの機会を支えました。

被災した子どもたちに対して、塾や習い事等で利用できる学校外教育バウチャーを提供し、教育格差の解消に取り組みました。バウチャーは現金給付と異なり、用途を教育サービスに限定する事ができます。また、大学生ボランティアが子どもたちと面談を行い、進路や学習、バウチャー利用に関する相談に乗り、子どもたちの成長を支えています。



@ Natsuki Yasuda

TOPICS



@ Natsuki Yasuda

【 これまで6年間で延べ500名を超える子どもたちが進学を果たしました 】

2016年度、高校・大学等に進学した子どもたちは99名となり、これまで6年間で延べ500名を超える子どもたちが進学を果たしました。また、2016年度の高校進学率は100.0% (全国平均:98.7%※)、大学進学率は80.0% (全国平均:54.7%※)となりました。これからも子どもたちが希望の進路に進めるよう、サポートしてまいります。*出典:文部科学省「平成28年度学校基本調査」



@ Natsuki Yasuda

【 大学生ボランティア数が100名を超えました 】

子どもたちを定期的な面談でサポートする大学生ボランティアの数が100名を超えました。大学生ボランティアは子どもたちとより良い面談ができるよう、コミュニケーションやグリーフケア等の専門家による定期研修を受けており、研修の企画・運営も自分たちで行っています。子どもたちからは「受験勉強で疲れているとき、大学生ボランティアの方との楽しい面談が数少ない癒しでした。」といった声が届いています。

成果

子どもたちの夢や目標を支えるとともに、政策提言を行うための基盤を強化しました。

被災した子どもたち434名(小学生～高校生)に対して、学校外教育バウチャーを提供。また、2016年度はシンクタンクや専門家等と協働して、事業の成果を可視化するための調査に着手し、これによって、事業を改善するとともに、自治体や政府への政策提言を行なうための基盤を強化しました。バウチャーを受給した中学校3年生及び高校3年生が希望する進路先に進学した比率は83.8% (83名/99名)でした。*アンケート回収率72.3%

今後のビジョン

一人でも多くの子どもたちに支援を届けるために、今後も継続的に活動に取り組みます。

学校外教育バウチャー事業は、事業規模が過去最大となり、バウチャー利用者数は年々増加しています。また、中長期的に被災自治体における学校外教育バウチャー事業の政策導入を進め、一人でも多くの子どもたちに支援を届けるために、調査や政策提言活動にさらに注力し、被災地の子どもの教育格差解消に向けて取り組んでまいります。そして、効果的に子どもたちを支えるために、大学生ボランティアによる子どもたちのサポート体制の改善等を行ってまいります。



震災後、知らない土地に引っ越し、中学生活になじめず悩む毎日が続き、将来に希望がもてませんでした。そんな中、高校受験の年にCFCの支援を受けて塾に通えることになり、母子家庭で育ててくれた母が少しでも楽になるのではと思ったのを覚えています。不安で逃げ出したくなったこともありましたが、それだけに、高校に合格したときには、支援者の皆さんに感謝でいっぱいでした。そして高校3年になった現在、短大幼児教育科に合格することができました。これからも支援してくださった皆さんへの恩返しだと思って頑張りたいと思います。ありがとうございました。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

〒136-0071 東京都江東区亀戸6-54-5 小川ビル2階
TEL.022-265-3461 <http://www.cfc.or.jp/>

Chance for Childrenは、阪神・淡路大震災で被災した子どもたちの支援を行ってきた特定非営利活動法人プレーンヒューマンティリーのひとつのプロジェクトとして2009年に発足し、経済的な理由で十分な学びの機会を得られない子どもたちに、教育機会を提供する活動を行っています。『すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を』をスローガンに、学校外での教育格差を解消し、すべての子どもたちがチャンスを得られる社会を目指しています。



勉強する場を奪われた子どもたちに、学べる場を

コラボ・スクール

【5歳～】

認定NPO法人カタリバ



課題

**震災から6年。
子どもたちを取り巻く教育環境は
厳しいままです。**

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県女川町と岩手県大槌町では、未だ、約3割の子どもたちが仮設住宅に入居し続けている等、子どもたちを取り巻く教育環境は厳しいままです。また、2016年度より支援準備を開始した福島コラボ・スクールは、生徒の多くが長い県外避難生活を経験しており、学習支援や心のケアが必要な生徒も少なくありません。

活動

**被災地の子どもたちのため、
放課後の学習支援と心のケアを
担っていきます。**

未来を担う子どもたちに逆境を力へと変える「学習機会」と心のケアを提供するため、2011年よりコラボ・スクール女川向学館、大槌臨学舎を運営しています。放課後の学校として、基礎学力の向上や、子どもたちの居場所機能も担っています。また、福島県ふたば未来学園高校内の福島コラボ・スクールの立ち上げ準備を開始。高校内でのカリキュラムサポートも行っています。



TOPICS



【震災当時、中学2年生だった生徒たちが、成人式を迎えました】

2011年12月に大槌臨学舎を立ち上げたときの中学3年生が、2017年1月に成人式を迎えました。元生徒のひとり「当時はあんな状況で、とても勉強する意欲なんてわかなかった。コラボの先生方との出会いが、その状況を変えてくれた」と語ります。混乱と絶望が続く中で高校受験に立ち向かった彼らは6年間で力強く成長し、町の復興を支える存在へと育ちました。



【英語教育や国際交流にも力を入れています】

女川向学館では、希望者がオンライン英会話の授業を受講しています。オンラインだけでなく実際に英語を話してみる機会として、2016年度はハワイから女川を訪れた中高生と交流するプログラムや、東京にあるアメリカの大学のサマースクール参加などのイベントが行われました。こうした取り組みの中で、英語学習のモチベーションや、海外への興味が生まれています。

成果

**約300人の子どもたちに居場所と
様々な機会を提供。
学力や意欲の向上に繋がりました。**

2016年度は、女川向学館・大槌臨学舎にて、園児から高校生まで293人をサポートしました(延べ利用者数は約3万人)。女川向学館では、年間を通して20回のキャリア学習・交流学习を実施。大槌臨学舎に通う中学3年生の100%が「コラボ・スクールを通じて、英語や数学の成績が上がった」と回答。また、福島コラボ・スクールの立ち上げに向け、教員との協働や放課後の学習会なども実施しました。

今後のビジョン

**震災から7年目。
今後のコラボ・スクールの在り方を
検討するとともに、
福島コラボ・スクールの
立ち上げを進めていきます。**

女川向学館、大槌臨学舎では引き続き子どもたちの放課後の居場所を提供しつつ、これから数年でハード面の整備が進み、震災復興の課題が大きく変わることを踏まえ、行政などの関係者とともに今後のコラボ・スクールの在り方を検討していきます。一方、立ち上げ準備を行ってきた福島コラボ・スクールは2017年4月に正式に活動をスタートしました。他拠点の知見を活かしつつ、「探究」という軸で子どもたちが成長することで震災の経験を自分自身の強さに変えていくことの支援にチャレンジしていきます。



私が小学3年生のときに東日本大震災が起こり、半年後から仮設住宅で暮らすようになりました。その仮設住宅の目の前にあったのがコラボ・スクール女川向学館です。女川向学館では友達と楽しみながら勉強したり、先生方とたくさん交流を深めました。中学生になって勉強が難しくなり数学が分からなくなったときも、向学館の先生はひとつひとつ教えてくださり、無事に第一志望の高校に合格することができました。向学館の先生と友だちと親、そして寄付してくださる皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、高校でもがんばっていきます。ありがとうございました。

認定NPO法人カタリバ

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
TEL.03-5327-5667 <http://www.katariba.or.jp/>

カタリバが取り組む社会課題は、「子ども・若者の未来を生き抜く意欲や能力が、生まれ育った環境によって左右されてしまうこと」です。被災や経済的困窮、地域格差など、自分ではどうにもならない事情によって、子どもたち一人一人の可能性が阻まれることがあってはなりません。どんな困難が待ち受けていようと、この社会を子どもたちが生き抜いていける力。そして、思い描いた未来を創っていける力を、あらゆる子ども・若者に届けることを目指し、全国で様々な事業を行っています。

NPO **カタリバ**

子どもたちに多様な経験と参画の機会の提供

児童養護施設支援・ 人材育成事業など

【 6歳～ 】

一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク



課題

震災の影響による経験格差と
地域の担い手育成の重要性。

東日本大震災以降、東北の児童養護施設には、震災遺児や震災の影響で保護者とともに生活する事が難しくなり入所することになった子どもたちがいます。自然との触れ合いや地域との交流など、子ども時代に多様な経験を積む事は重要ですが、施設に入った子どもたちはこうした経験を得られにくいのが現状です。また、課題先進地とも言われる東北において、未来の地域の担い手育成がより重要となっています。子どもたちの主体性を育み、可能性を広げられるよう、参画の機会をサポートする必要があります。

活動

児童養護施設の子どもたちへ
自然体験活動の機会や
高校生等への参画の機会の提供。

主な取り組みとして、児童養護施設の子どもたちを対象に、普段接する機会の少ない大学生や地域住民との交流なども盛り込んだ自然体験活動、高校生による地域住民との交流事業や県外での語り部活動をサポートしています。また、大学生となった支援事業の卒業生たちの参画を進めるなど、地域における支援の循環も模索しています。



TOPICS



(写真はイメージ)

【 児童養護施設の子どもたちを対象とした網地島での宿泊行事 】

夏休みに家族で旅行に出かけるような機会が持てない児童養護施設の子どもたちへ、石巻市の網地島での宿泊行事を実施しています。子どもたちは同じく被災経験のある大学生ボランティアと交流しながら、地域の方と一緒に漁業や農業、キャンプファイヤーや食事作りなど、普段の生活ではなかなかできない経験を得る事ができました。



【 高校生が地域の方々と清掃活動などを実施 】

高校生が地元との繋がりをしっかり持ち、これからも地域と共に歩んでいける様、サポートを行いました。具体的には地域の方々とともに、被災者を偲ぶ慰霊塔などの清掃活動などを実施し、地域を知り交流する機会を設けました。また、高齢者など地域住民の活性化にも繋がりました。

成果

約100名の子どもたちを支援、
大学生となった支援事業の
卒業生たちの参画。

- 宮城県仙台市や気仙沼市の児童養護施設に暮らす50名の小中学生に対して、自然体験活動の機会を提供。大学生となった支援事業の卒業生10名も参加。
- 50名の高校生が地域住民等とともに交流事業を実施。
- リーダー育成を目的とし、高校生による仮設住宅の高齢者や小中学生に対する支援活動を実施。
- 4名の高校生の県外での語り部活動をサポート。

今後のビジョン

これからも、子どもたちに体験と
活躍の「場」を提供し続けます。

引き続き、児童養護施設の子どもたちを対象とした支援活動や高校生たちへの参画の機会を提供していきます。そして、支援事業の卒業生や行政や地域企業・団体との連携を深め、地域における支援の循環を目指します。「東日本大震災を忘れない、いつまでも支えていける活動」この言葉を心がけ、これからも活動を行っていきます。



子どもたちが海や山で生き生きとのびやかに笑顔で生活が出来た事、普段の施設内では見られない姿を目にすることが出来ました。とても貴重な体験を、皆様が協力していただけたからこそできた体験であったと思います。ありがとうございました。



語り部活動を進んで行っている子どもの姿が印象的でした。とても素晴らしい多くの体験を行わせていただいたことは大変感謝いたしております。

一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク

神奈川県大和市中央6-12-19 ハイツ市川第3-205
<http://ysvn.web.fc2.com>

阪神・淡路大震災後、神奈川県大和市在住の有志によって立ち上げた団体です。防災・減災活動と防災教育に力を入れ、復興支援活動を継続して行っています。主に高校生による被災高校との相互防災研修(交流)、ユースによる地域安全の取り組みの推進などを行っています。



個人からのご支援

毎月の継続寄付会員
(呼びかけ人)
約1,300名
(2017年3月末時点)

北山 陽一
ゴスペラーズ

震災の時に産まれた子どもがハタチになるまで支えたい。で、ハタチ基金。この20年という活動目標期間は、覚悟のあらわれだと思いますが、僕は、これは祈りだと思ったんです。言葉にして、叶えるんだ、という強い想い。僕はそこに共感しています。起承転結で言えば起から承に移っていくいま、ハタチ基金の今後、とてもワクワクしています。

馬越 恵美子

桜美林大学経済経営学系教授

ゼロ歳の初孫が成長して20歳になるまでハタチ基金を通じてもうひとりの方の成長にほんの少しでもお役に立つことができれば、と思っはじめてました。その孫はもうすぐ7歳。月日は経ちましたが、まだまだ震災の影響を受けている方も多くと思います。これからも微力ですがお手伝いさせていただけることが嬉しいです。

前田 隆一

有限会社・代表、神社役員、
団体役員・顧問等々

知人からクリスマスカードのメールをもらいました。心が温くなるようなカードの末尾に、「ハタチ基金を続けています」との言葉が添えてあったので、ネットで調べて、私も申し込みをしました。福島浜通りに有った会社は、私の卒業会社の子会社でした。原発の影響下で会社は閉鎖となり、社員や家族はちりぢりになったと聞いています。OBたちで募金をさせていただきましたが、この基金のように、少額でも長く支援を続けたいと思っはっています。

鈴木 聡美

仄々倶楽部合同会社
代表社員

未曾有の大震災。自分も辛い思いをしましたが、今はとても前向きに頑張っています。人は1人では生きていけません。助け合って生きています。私は沢山の方々に支えられて生きています。そして私も子どもたちが笑顔で過ごせるよう、力になりたいと思っはっています。

徳森 綾

CafeRestaurantネモ オーナー

岡岡で夫婦で飲食店をしています。震災の年に生まれた娘が1人いて、他人事には思う事ができず上から継続的な支援を思いました。子どもたちに明るい希望が持てる未来を。

野口 潤

司法書士 野口潤事務所

ちいさな仲間たち

一緒に笑顔になれたらいいな。

一緒に悩めたら、泣けたらいいな。

一緒に考えられたら、動けたらいいな。

おおきくなった仲間たち

一緒に明るい未来を語れたらいいな。

荒井 友香

4児の母

被災地の子どもたちに継続寄付できる機関を探していました。つらい思いをしてきたからこそ、育つものがあると信じています。地元の人達が必要だと判断した所に使用されると分かってるので安心ですし、子どもたちの様子をご報告頂けるのが楽しみです。

高橋 ひろ子

会社員

被災地に友人がいるので、東北や震災の事はいつも覚えてはいるのですが、募金やボランティア活動といった目に見えるカタチの支援はほとんどした事ありませんでした。福島のモノを買ったりとか、それぐらいで。今回、子どもたちの希望ある未来のために微力ながら応援させていただける機会が出来たのが、とても嬉しいです。関係者の皆様、大変な事は多いと思いますが、どうぞ東北が、この日本がより良い明日を歩めるように応援しております。

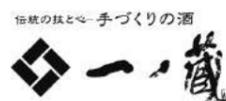
〈呼びかけ人〉後藤健夫、関根郁夫、荻野弘之、今村久美、岡崎大輔、皆川司、馬場学、村松和彦、白井智子、鈴木啓太、小村俊平、山内悠太、三谷宏治、梅村洋、平川摂、中原淳、常峰和生、杉山達哉、山崎清治、中野真依、谷本勉、大見勉、中山裕美子、岩井俊宗、北山陽一、吉次潤、荒川寛子、村田早耶香、篠原建志、菅原美智子、小山史未子、村田一倫、伊月和夫、清末真司、町田智雄、高孝雄、中村慶子、上原航平、安田七海、吉田紫磨子、大湯咲子、大木かおり、松江妙子、川本純子、真鍋康正、酒井輝、三好史恵、久野哲、石田明、村上久乃、宮川直子、田中たまき、水野貴允、野中亮宏、古屋克己、泉朋行、國領二郎、西尾伸介、小倉美代子、渡谷治美、波多野淳、山本龍太郎、馬越恵美子、芝原晴、田島弓子、茅野和枝、新屋久幸、牧村雅美、新井清美、町田あき子、近藤彦彦、斎藤亜弓、吉田真奈美、神谷純子、篠原由美、清野千恵子、堀越美紀、田村準、野口陽子、寺脇研、山崎倫代、岡本拓也、クレイネス敦子、中澤澄夫、山脇直司、河村昌治、井生亮一、水沼健、植村久也、田中綾乃、長谷川里奈、出町慎一、高島由美、鈴木信章、庄司真、西原真人、林高志、笠原しょうこ、大石さゆり、増田裕幸、山本薫子、川端洋子、濱島成士郎、鹿野隆、掛端薫、松下光司、山本由美子、三輪潤子、石田昌宏、浜中和美、佐藤尚志、北澤ちさと、吉本知子、村松賢司、貫井政文、小林紀方、鈴木厚子、辻本敬子、石川美聡、馬越太郎、能島裕介、山内明子、大嶋美弥、下村信子、平井豊康、力石みのり、鈴木慶男、松原真樹、野々山和美、富田英明、石垣路子、山口裕臣、中山貴美子、野々垣みどり、金子孝代、北村智、霜村真真、米倉弘樹、長谷川勇紀、石崎雅士、中川奈都子、長谷川美貴子、高橋美加、今林正嗣、古川佳子、若菜勉、野口潤、服部繁男、荻山嗣晃、國金美砂緒、井上千賀子、中野純、棚橋聖子、加藤和佳子、縄田和生、田崎暢真、田嶋陵、昌子、小室奈子、大田道之、東佑丞、青木薫、徳永忠士、堀口智、山口悠、清原大、本間純子、森麻衣子、安田貴子、松永忠大、高久賢次、小竹政年、高橋容子、本田美紀、福地潤子、鈴江秀樹、細川邦子、鈴木大介、吉岡緑、愛甲ちえ子、伊藤玲子、菊池しのぶ、熊谷真希子、桐原意有、高橋達也、岩田このみ、増田純平、藤井朋樹、坂本一、鮫島麻実、高根沢香、齋藤礼子、窪雅子、李明炯、川島ゆり子、河野香織、佐藤朋子、長谷川智実、平原由季子、武田康裕、山白千津子、中井真佐子、海野奈々美、田中公子、生島織夢、高尾義明、望月あや、土屋有、紅谷昇平、畑中松雄、田村美香、本田洋子、稲本由紀子、相原ゆみ、高部裕通、細置智大、小山聖子、澤澤紅美、内藤賢司、横山知香、木根珠実、藤田有紀、松田静子、川崎環樹、高橋あづさ、山崎正枝、菅井啓勝、杉原一臣、一色隆平、黒田朋斎、井上孝之、八塚絵里、石原玉美、大山和寿、志垣有紀子、宮田祐子、大塚雅彦、外岡周、たなかりか、手柴孝太、桂隆博、服部祥子、原田裕造、太田智子、濱岡俊、川口崇、小室吉隆、渡辺貴久、貫井猛昌、井上規正、宮原梨子、道須佳恵、神谷佳子、大野里香、林隆、久保田奈穂子、竹島彩子、中野充朗、高木真理子、田辺彰、高島啓輔、勝村和子、浅井琢也、伊藤裕子、京野玄、守屋麻樹、木寺寿徳、斎藤薫、高野昌典、吉田裕介、秋元祥治、鈴木亜紀子、松浦俊夫、出村一夫、工藤博司、日下美穂、高橋弘行、長山晴美、茅野博、中島隆文、西村大気、阪本圭、嶋梨恵、佐々木早苗、森山友歌、谷本悟、鈴木倫子、八巻知香子、大谷亜希子、新井睦美、戸田靖子、川越修、福岡八寿子、川村志げ子、佐藤洋行、織田亜由美、伊藤慎悟、大久保直之、出口善也、宮城島知恵子、村井宏行、力田春彦、石田洋司、小林智彦、山崎ゆみ子、中島徹、村松邦子、清水俊子、志村啓、高橋直人、二瓶孝浩、高須生恵、小林聖子、重面武、齋藤左知子、浅見有紀、神原陽平、近藤安明、山内伸一、瀧瀬美樹、内田幸美、初谷透、石原典明、高山真理子、タナバト淳子、横山元、戸崎優、小林尚子、永田正樹、芳賀淳、北川尚之、加藤節子、早房君枝、

ハタチ基金では、毎月の継続寄付会員の皆様を、「呼びかけ人」と呼んでいます。人々の震災への記憶も、残念ながらだんだんと風化していきます。そんななか、一人ひとりが身近な方へ呼びかけることも、子どもたちへの支援につながります。

ハタチ基金の「ハタチ」には、「20歳」「20年」という意味と、「葉たち」という意味があります。木の幹(子どもたち)が育つためには、葉(=太陽の光を養分に変える)の存在が必要不可欠です。

企業・団体からのご支援

ハタチ基金では、2016年度、企業・団体様からのご寄付を200件以上いただきました。継続的にご支援をいただく企業・団体様も多く、ポスターやチラシの作成・配布など、子どもたちを支える輪を一緒に広めるためのご協力もいただいております。



株式会社一蔵



ダイドードリンコ株式会社



アソシエイテッド・インターナショナル株式会社



株式会社ホッタ



株式会社クオカード



株式会社サンポール



KDDI株式会社



株式会社LOUVREDO



SHAKE SHACK



アズワン株式会社

株式会社ディノス・セシール、大阪ガス株式会社、J-POWERグループユニオン、松谷商事株式会社、株式会社生活総合サービス、社会福祉法人 慈光学園、銀座西並木通り会、株式会社サンポール、株式会社オキナ、レインボーマン・けいはんな記念公園管理事務所(共催)、STEP2000、チューリッヒ日本人会、日蓮宗島根県教化センター、立夏幼稚園、一布会、株式会社トリガー、一般社団法人 日本サロネーゼ協会、岩国あしなが会、美術大学ボランティアセンター、養老国際交流協会、ハタチ基金チャリティコンサート2016実行委員会、Art for people、北海道大学医学部41期会、Boulangerie-Patisserie ALLARD、心の絆応援プロジェクト実行委員会、国際医療福祉大学、日本早期認知症学会、尾張旭ランニングクラブ、株式会社CORE技術研究所、株式会社サイ・コーポレーション、寒川コール四季の会 チャリティー演奏会、デュオヘラ有限会社、NPO法人Dance Association Seeds、株式会社オオイシ、つながる箱、キューピー株式会社、株式会社セールスフォース・ドットコム、株式会社リベルタ、オーエム通商株式会社、山佐産業株式会社、うえとsalon&bar、Run for Children Tohoku、DRAGON HEAD、フィットネスサークル「Love & Peace」、東京都立淵江高等学校、高田馬場 新田歯科医院、株式会社シイエム・シイ、株式会社ライフコミュニケーション、日蓮宗名古屋青年会、一志眼科、湘南寒川パソコン教室 ちづる大楽、株式会社ユニヴェール、日油株式会社、ラッセル・インベストメント株式会社、コアスタッフ株式会社、株式会社LIVE CREATE、京都市少年補導委員会・京都府少年補導連絡協議会、hair salon Gallica … ※その他、たくさんの企業・団体様からご支援をいただきました。

支援者様からのメッセージ



ハタチ基金
チャリティコンサート2016
実行委員会

堀田 峰明

2012年から継続的に開催されているハタチ基金チャリティコンサート。2016年度も多くの方にご参加いただき、収益の全額をご寄付くださいました。

音楽という触媒を通じて、被災地へ温かいまなざしをそそぐお手伝いを、これからも続けていきたいと思っています。2016年は、ハタチ基金の支援を得て進学することができた大学生より被災地の状況をお話し、懇親会では多くの参加者の方と交流していただきました。



尾張旭ランニングクラブ
会長

渡邊 隆秀

愛知県尾張旭市にて毎年開催されている「維摩池周回チャリティーマラソン」での参加料の収益全額をご寄付いただいております。

私たちにできることは忘れないこと。継続すること。未来ある子どもたちを支えるため2011年から始めたチャリティーマラソンを今後も継続していきたいと思っています。ボランティアの方々、マラソンに参加して下さる皆様と共に応援しております。



株式会社生活総合サービス
経営管理部

高津 英彰

「ていねい通販」へのお友達紹介数に応じて、年に一度、ご支援いただいております。

継続的に支援し続けられるという点が、ハタチ基金の魅力だと思います。支援を求める子どもたちが、それぞれ自分の夢や目標を見つけて、実現できることを願っています。微力ではありますが、私どもも一緒に継続的に支援して参りたいと思います。



株式会社ディノス・セシール
インテリア・家庭用品部
ゼネラルマネージャー

山野辺 慶子

対象カタログでのお買いもの1回につき10円が復興支援活動を行う団体への寄付に繋がるプロジェクト「東北に春をお届けします。」を通じて、ご寄付くださいました。

東北の未来を担っていく子供たちに学びの場を提供していく「ハタチ基金」さんの活動に少しでも力になれば…と今年も支援活動を継続させていただいています。震災からの復興と子供たちの輝かしい未来を心より願って、これからも応援させていただきます。



大阪ガス株式 近畿圏部
ソーシャルデザイン室

横田 典子

「チャリティファミリークッキング」の参加費全額を大阪ガス社会貢献活動「小さな灯」運動を通じてご寄付いただきました。

私たちは被災地の子どもたちが笑顔で大きく育ってくれることを願い、ハタチ基金さんに関西から一枚の葉を託しています。月日は経っても被災地への思いを風化させないため、関西でもまた、私たちにできることに地道に取り組み、これからもエールを贈り続けたいと思います。



一志眼科 院長

豊田 浩司

毎年、医院にて作成、販売くださる「チャリティカレンダー」を通じて、2012年より継続的にご支援をいただいております。

三重県津市の眼科です。将来、東南海地震がおこった時の我々の子どもたちの姿だと感じ、何か支援をと2011年末からチャリティカレンダーを始めました。毎年多くの患者様が関心を寄せてご協力くださっています。

会計報告

〈公益社団法人ハタチ基金 決算報告〉

正味財産増減計算書 2016年4月1日～2017年3月31日

(単位:円)

科目		2016年度実績	科目	2016年度実績
① 一般正味財産増減の部	経常収益	受取寄付金	受取寄付金	71,560,969
		受取寄付金振替額(指定正味財産からの振替額)	一般正味財産への振替額	▲77,842,794
		受取利息	当期指定正味財産増減額	▲6,281,825
	経常収益計		111,543,432	指定正味財産期首残高
経常費用	1.事業費	人件費	指定正味財産期末残高	32,754,643
		助成金	③ 正味財産期末残高	33,858,590
		事務局運営費		
		その他事業費		
	2.管理費	人件費	945,208	
		事務局運営費	1,869,600	
		その他事業費	4,660,654	
経常費用計		111,403,000		
当期一般正味財産増減額		140,432		
一般正味財産期首残高		963,515		
一般正味財産期末残高		1,103,947		

●残高は2017年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。
 ●呼びかけ人の皆様からの継続的なご寄付については一般寄付金とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動および基金の運営管理など、ハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。
 ●ご都合の良い時にいただく都度のご寄付については指定寄付金とし、被災地の子どもたちを支援する団体の活動のために使用させていただきます。

貸借対照表 2017年3月31日現在

(単位:円)

科目		金額	科目	金額		
① 資産の部	流動資産	現金預金	2,515,898	② 負債の部	1. 流動負債	
		前払金	50,000		未払金	3,774,193
		流動資産合計	2,565,898		流動資産合計	3,774,193
	固定資産	(1)基本財産		2. 固定負債		
		基本財産合計	0	固定負債合計	0	
		(2)特定資産		負債合計 3,774,193		
		助成事業特定資産	32,754,643	③ 正味財産の部	1. 指定正味財産	
		特定資産合計	32,754,643		寄付金	32,754,643
		(3)その他固定資産			指定正味財産合計	32,754,643
		ソフトウェア	2,312,242		2. 一般正味財産	1,103,947
その他固定資産合計	2,312,242	正味財産合計	33,858,590			
固定資産合計	35,066,885	負債及び正味財産合計 37,632,783				
資産合計		37,632,783				

監査報告書

平成29年5月25日

公益社団法人ハタチ基金

代表理事 今村 久美殿 駒崎 弘樹殿 栗田 智子殿 能島 裕介殿

公益社団法人ハタチ基金 監事

私は、公益社団法人ハタチ基金の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの会計年度における会計ならびに業務を監査するため、帳簿および関係書類の閲覧、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取するなど、必要と思われる監査手続きを実施して財務諸表の正確性及び業務執行の妥当性について検討しました。その結果、次のとおり報告いたします。

1.計算書類およびその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況を正しく示していると認めます。 2.事業報告書は、法人の業務執行の状況を正しく示していると認めます。 3.理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。 以上

〈2016年度公益社団法人ハタチ基金助成事業について〉

助成件数:5件 助成金額:85,000,000円



〈各団体の支出〉(使用期間:2016年4月1日～2017年3月31日)

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

●学校外教育バウチャー提供事業 【総事業費】118,734千円

(単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
学校外教育バウチャー費	12,500
人件費(事業運営・調査等)	3,155
通信費、広報費等(利用者・教育事業者募集等)	4,214
研修費、交通費等(ボランティア研修・面談、調査等)	4,130
合計	24,000

認定NPO法人フローレンス

●おうち保育園 【総事業費】50,449千円

(単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費(運営スタッフなど)	3,982
物件費(工事費、地代家賃等)	11,182
その他(広報費など)	334
合計	15,500

一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク

●児童養護施設支援・人材育成事業など

【総事業費】2,400千円

(単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
活動費	628
スタッフ人件費	487
事務局運営費	210
その他運営費(通信費、備品購入費など)	273
合計	1,600

各事業の総事業費および、その中でハタチ基金からの配分を使用した支出を記載しています。*千円未満の端数は切り捨て掲載しているため、内訳を足した金額と合計金額が異なることがあります。

認定NPO法人カタリバ

●コロボ・スクール(女川向学館、大槌臨学舎) 【総事業費】233,048千円

(単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費	13,926
移動・活動費	2,711
教材費・備品・消耗品	800
その他運営費	14,061
合計	31,500

NPO法人トイボックス

●みなみそまラーニングセンター 【総事業費】54,747千円

(単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費、業務委託費	7,988
運営費	1,876
広報・事務費など	2,534
合計	12,400

子どもたちに学び・自立の機会を提供するために、復興状況や現地のニーズに合わせて支援活動を実施する団体へ助成を行いました。皆様の想いとともに寄せられたご寄付を、確実に子どもたちのために役立てます。

ハタチ基金へのご支援の方法

ハタチ基金は皆様からのご寄付によって活動を実施しています。被災地の子どもたちを支援することは、被災地の復興、そして日本の未来を作ることに繋がると私たちは信じています。

① 毎月の継続寄付

毎月の継続寄付会員(呼びかけ人)として、
月々1,000円からクレジットカードで継続的にご寄付。

お申込みはWEBサイトより
<http://www.hatachikikin.com/shien/personal>

ハタチ基金 呼びかけ人

検索

※毎月の継続寄付会員の方でご増額いただける方は、事務局までご連絡ください。

▼ご支援金額

- 1,000円/月 ● 5,000円/月
- 2,000円/月 ● 10,000円/月
- 3,000円/月 ● 50,000円/月

② 今回のご寄付(個人/法人・団体)

ご都合の良い時にご希望の金額を、
銀行振込またはクレジットカードでご寄付。

お申込みはWEBサイトより
<http://www.hatachikikin.com/shien/tudo/donate>

ハタチ基金 今回のご寄付

検索

※銀行振込みの場合、WEBサイトよりお申込みの上、右記口座にお振り込みください。

▼ご寄付専用口座

【三菱東京UFJ銀行】
高円寺支店(店番号:155)
公益社団法人ハタチ基金
コウエキシヤダンハタチキキン
シヤ)ハタチキキン
口座番号:普通 0144274

ハタチ基金へのご寄付は寄附金控除(税制優遇)の対象です。
※寄附金控除を受けるには、確定申告が必要です。詳しくはお近くの税務署にお問い合わせください。

③ その他のご支援方法(一部)

チャリティーブックカバー

フリーサイズ&着せ替えデザインのブックカバー「アマネカ・カスタム ハタチ基金チャリティーモデル」(WEBサイトでの限定発売)を通じて、販売価格の35%をご寄付いただいています。

ジェコル officialサイト(ジェコル株式会社) <http://jerrycole-design.com/>



キボウのカケハシ

「auかんたん決済(auの通信料金と合算してお支払いいただけるサービス。auのポイントでも寄付が可能)」、または「じぶん銀行」からご寄付いただけます。支援先にハタチ基金をご選択ください。

KDDI社会貢献サイト「キボウのカケハシ」(KDDI株式会社) <http://kakehashi.kddi.com>



キッズスマイルQUOカード

カード一枚につき50円がハタチ基金など東日本大震災の被災地の子どもたちを笑顔にする活動への寄付につながります。

キッズスマイルQUOカード
(株式会社クオカード)
http://www.quocard.com/special/kids_smile/



ジャパングビング

あなたが何かにチャレンジすることで、支援したい団体のために寄付を集めるプラットフォームです。支援先にハタチ基金をご選択ください。

ジャパングビング(株式会社JGマーケティング)
<https://japangiving.jp/supports/415>



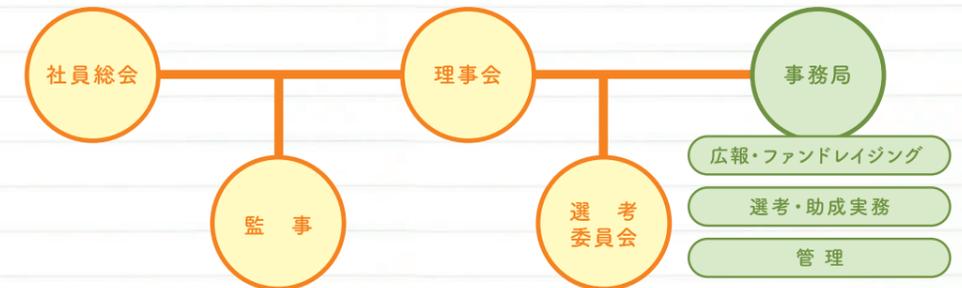
※その他、様々な形でのご支援をいただいております。最新情報はWEBサイトをご覧くださいませ。

運営団体紹介

団体概要

名称	公益社団法人ハタチ基金
本部	東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
TEL	03-3330-0005(平日10時~19時)
FAX	020-4665-3239
E-MAIL	info@hatachikikin.com
設立	2014年10月1日(2011年4月に基金設置)
役員	代表理事/今村久美、駒崎弘樹、白井智子、能島裕介 監事/瀧口徹

組織図



沿革

2011	2011年3月11日	東日本大震災発生
	2011年4月	公益財団法人日本財団内に「ハタチ基金」を設置 日本財団と被災地支援実施団体との共同プロジェクトとして活動開始
2012		
2013		
2014	2014年10月	日本財団の参画終了に伴い、後継団体として公益社団法人ハタチ基金を設立
2015	2015年1月14日	公益社団法人ハタチ基金が基金運営を引き継ぎ
2016		
2017		

代表理事
白井 智子

代表理事
能島 裕介



2017年7月経営合宿にて

2016年度も皆様のあたたかなご支援のおかげで、
活動を実施する事ができました。
本当にありがとうございました。

今後もハタチ基金を通じて、
子どもたちの成長に伴走いただきます様、
何卒、よろしくお願いいたします。

代表理事
駒崎 弘樹

代表理事
今村 久美